

ASEAN 3 首相との出会い（印象記）



川原 英一

12月16日から18日まで、日・ASEAN 友好関係 50 周年を記念した特別首脳会議があり、同会議に出席された首脳のうち、東ティモール、シンガポール、ラオスの各首相を成田空港でお迎えする機会がありました。3人の首相をお迎えした際に感じた個人的印象を私見とともに以下ご披露させていただきます。

東ティモール首相

12月16日早朝にお迎えしたグスマン首相は、お元気そうに機内から出て来られた。同首相をお迎えている大使ほか在京大使館館員に軽く握手された後、一瞬、身ぶるいをされて、寒いのは苦手とのジェスチャーをされた。また、途中経由地のインドネシア・バリ空港からの便が満席状態であり、あまり休息できなかったと語っておられた。



（左写真：真ん中にグスマン首相、右側はダ・コスタ在京大使）

白髪で、恰幅の良いお姿で、ゆっくりと空港内を歩きはじめ、過去に訪日されたおりからの顔見知りであろうと思われる在京大使館の女性職員達を見つけて、自ら近寄り、にっこりと笑顔でもって挨拶された。動く遊歩道を利用される際には、「この遊歩道を辿れば、東京都内まで行けるのだろうか」といった茶目っ気のある御発言がありました。

21年前、初代大統領となった国の英雄も、御年 77 歳にお成りで、柔和なお顔に感じられた。ここ数年、野党党首をされていたが、今年 5 月の同国議会の選挙結果を受けて、7 月に首相に選出された。昨年の ASEAN 首脳会議で、東ティモールの ASEAN 加盟について原則合意がされており、首相就任にあたり 11 番目の加盟国としての準備に力を尽くすと述べておられた。

空港内を移動中に、健康のため、毎日、何かしておられますかとお聞きしたところ、「夜、睡眠する際、頭のなかで、散歩しています」との愉快的な発言をされた。

同首相にお会いする前にダ・コスタ在京東ティモール大使と空港内貴賓室でしばしお話しした。ダ・コスタ大使は、日本に着任されて3年近くになられるが、コロナ流行のため、日本国内を移動することを自粛・制限されたので、地方訪問の回数は多くはないと述べられた。これまで台湾に近い石垣島、高知、福井、金沢などを訪問されている。

同国が産する天然ガスとコーヒーは日本に輸出されており、天然ガスは東京ガスや大阪ガスが購入して

いると同大使が述べられた。また、同国の排他的経済水域（EEZ）内の水産資源が、近隣国漁船による不法操業にさらされており、不法な漁業の取締が課題となっており、日本政府に対して海上監視能力の強化に向けての支援を期待しているとお話も伺った。

同大使は、日本との大学間交流に力を入れておられ、金沢大学と同国大学との間で、既に覚え書き（MOU）を交わしている。同国から日本への留学生の増大や両国大学間の交流増進に積極的なお考えをお持ちであった。また、同大使から、東ティモールは、若い人の人口比率が高いこと、今後の同国の産業の多様化を進める観点から、地域密着型の観光業や漁業の人材育成に力を入れたいとお話もありました。

シンガポール首相夫妻

12月15日午後、リー・シェンロン首相ご夫妻をお迎えした。日本の冬の寒さを想定されて、ご夫妻はそれぞれグレーと赤色のコートを着用されて機内より出て来られた。長身で白髪と同首相は、空港内を颯爽と歩かれ、途中で、同行している首相夫人、同行者との距離が離れたことに気づかれて、スピードダウンされた。とてもソフトな語り口で周りの方を魅了される方と感じた。

若き頃、英ケンブリッジ大で学ばれ、2004年にシンガポールの3代目首相となられ、以後20年近く首相として御活躍をされている。首相在任中、シンガポールの経済発展には目を見張るものがある。来秋、現在の副首相にバトンタッチされる予定である。同首相は、度々、訪日されており、昨年5月に東京で行われた新聞社主催のアジアの未来に関する国際フォーラムでは、アジアで日本が安全保障分野でより深い役割を果たすことを期待する旨の基調演説をされたと記憶している。

王（オン）在京シンガポール大使と同首相一行が到着する前に空港内貴賓室でお話する機会があった。当方から、1980年代当時に直接に垣間見たシンガポールの中心街の様子などを同大使にお話し、シンガポールが国語を英語とすることを初代リー・クアンユー首相（現首相の御父上）が決断され、同国の国際化、世界の金融センターへの道を開かれたこと、また、シンガポールの人達の勤勉さがシンガポールの経済発展に大きく寄与されたのではないかとお話ししたところ、同大使より、他民族国家であり、1960年代には民族間の対立・暴動が起きた時代もあり、中国系、マレー系、インド系のいずれの言語を国語にしても対立を生みやすいので、英語を選択して対立を回避したこと、勤勉さにおいては、戦後日本人も同じですとの同大使から御発言があった。

王大使は、文科省国費留学生として東工大に留学されている。その後、在京シンガポール大使館に2度勤務されて、3回目の勤務となる今年からは、大使として着任されておられる。変わりゆく東京の姿について、昔の東京の方が自分（同大使）としては好きであること、他方で、最近、オープンした麻布台ヒルズなどを建設した森ビルの経営者は、30年の長い年月をかけて、地域の再開発に取り組み、っか

りと実現をされており、大変に興味深く、また、素晴らしいとの感想を述べられた。

南シナ海の広範囲の海域について領有権を主張して、A S E A N 各国と対立する中国との関係についての大使の個人的お考えを伺ったところ、ASEAN が中国との間で行動規範づくりについて対話と協議を長く続けることにより、予期しない事故の発生を回避できており、中国との対話継続の重要性を語っておられた。

大使のお話をお聞きしながら、中国との対話が途絶えた場合に対話を再開するのは大変な努力とエネルギーが必要となるのは、至近の例からも明白に思われた。

今年 11 月中旬、サンフランシスコ南郊で米中首脳会談が 1 年ぶりに対面で行われたが、ペロシ米下院議長（当時）が訪台した後、米中両国の軍高官同士の直接通信を中国側が遮断し、その後、バイデン政権がプリンケン国務長官、財務長官、商務長官など主要閣僚を派遣するなど、数多くの働きかけを行った結果、中国側が応じて、ようやく対面での両国首脳会談が実現し、遮断された米中両国軍の高官同士の直接通信の再開や首脳間のホットライン設置で両国の意見が一致したことを思い出した。

中国は南シナ海の大部分を自国の海だと一方的に主張して、南シナ海のいくつかの環礁島で浚渫工事を行い、港や空港施設を建設するなど現状変更をしていることは周知の事実となっています。

こうした一方的な現状変更をする動きに対し、周辺国のフィリピンなどが自国だけで対応しようとしても、海軍力で遥かに優る中国を相手にするのは容易なことではありません。アジア太平洋政策を重視するバイデン政権が A S E A N 諸国との安全保障面での協力関係を深化させているのは、自然の流れに感じます。

ラオス首相御夫妻

12 月 16 日早朝、ソーンサイ首相ご夫妻を空港でお迎えした。お元気そうなご様子で機内から出て来られて、「早朝にお迎え頂きとても感謝します」ととても柔らかな表情で述べられた。当方から歓迎の辞を述べた後、2001 年まで在タイ大に在勤した折、ミャンマー・ラオスとの国境に近いタイ最北部チェンライに出かけて、国際河川の向こう側にあるラオスを眺めたことがありますと申し上げたところ、同首相より、この地域は、その後、大いなる発展を遂げましたとのご発言がありました。

同首相から、来年は ASEAN 議長をラオスが引き継ぐことになっており、新議長国ラオスへの日本からの支援の一環として、日本車 24 台が供与されたという話の御披露があり、同首相は、日本からの支援をととても喜んでおられた。

最近、中国車も増えていると思われるラオスで、ラオスが議長国として主催する ASEAN 関連の数多くの会合で、同国政府や ASEAN 各国政府代表などが日本車を利用される。日本からラオスへの暖かな支援を象徴する事例に思われた。

日 ASEAN 特別首脳会議と関連行事を終えられたソンサイ首相ご夫妻を空港でお見送りする際、貴賓室で短時間懇談する機会がありました。同首相から、首都ビエンチャンにある日本からの協力で改修されたチャオ・アヌウォン・スタジアムを利用して、今後、スポーツ交流を活発化したい、子供たちの栄養改善と合わせて、地方に多い貧農への食糧生産・供給の安全保障に大きな関心を有するなどの御発言がありました。

同首相夫人からは、滞在中、岸田総理夫人から茶会に招かれて、茶道のマナーをいろいろと学び、また、長い伝統の中で工夫を重ねた精進料理を美味しく頂いたことなどが印象深かったとお話をうかがった。



(左から 2 番目がラオス首相、その隣は同首相夫人、在京ラオス大使の順)

フォンサムット在京ラオス大使とお話した際は、同大使から日本のラオスに対するこれまでの多様な分野での協力を深く感謝をしていますとの発言があった。また、8 年前、ラオスから 4 頭の小象が京都市動物園に繁殖目的で贈られたのに自分（同大使）がかかわったことがあり、日本大使となった後に、同動物園を訪問したところ、随分と大きく成長した象に再会でき、市民の間で人気ものとなっていたこと、また、京都市内の地下鉄の駅構内の壁に、これら象の大きな絵が描かれているのを見て驚いたと発言されて、自ら撮影された写真を携帯から見つけ出して、お見せ頂いた。

日本とASEAN友好関係の未来

今回の日 ASEAN 特別首脳会議は、「信頼のパートナー（Trusted Partners）」との副題がつけられた、日本とASEANの友好協力についてのビジョン・共同声明や実行計画を採択している。

世代を超えた心と心のパートナー、未来の経済・社会を共創するパートナー、平和のためのパートナーという 3 本のパートナーシップを謳っている。成長著しい ASEAN 諸国と日本の友好関係の未来が、さらに明るいものとなることを期待したい。

(外務省参与・外国要人接遇担当大使、元駐グアテマラ大使、令和 5 年 12 月 25 日 記)